

令和 5 年 度

事業報告書

自 令和 5 年 4 月 1 日
至 令和 6 年 3 月 31 日

令和 6 年度

自 令和 6 年 4 月 1 日 事業計画
至 令和 7 年 3 月 31 日

令和 7 年度

自 令和 7 年 4 月 1 日 暫定事業計画
至 令和 7 年 6 月 30 日

一般社団法人
日本弗素樹脂工業会

目 次

1. 会員名一覧表	1
2. 事業組織	2
3. 会員及び役員	3
4. 委員会及び事務局	4
5. 事業活動状況	5
5－1 集会等の総括	5
5－2 会議	6
・総会	6
・理事会	7
・会務委員会	9
・業務委員会	10
・主要会議等スケジュール(実績)	28
6. ふっ素樹脂統計	29
7. 令和6年度事業計画	31
8. 令和7年度(4～6月)暫定事業計画	33

1. 会 員 名 一 覧 表

令和6年3月現在

正会員（ふっ素樹脂加工関係）：22 社

会 社 名	会 社 名
有 限 会 社 飯 田 製 作 所	日 建 塗 装 工 業 株 式 会 社
池 田 テ ク ノ コ ー ト 株 式 会 社	ニ ッ シ ン コ ー ポ レ ー シ ョ ン 株 式 会 社
イ ワ キ コ ー テ ィ ン グ 工 業 株 式 会 社	日 星 電 気 株 式 会 社
株 式 会 社 大 野 社	日 本 ピ ラ ー 工 業 株 式 会 社
株 式 会 社 喜 多 村	日 本 フ ッ ソ 工 業 株 式 会 社
光 洋 化 学 株 式 会 社	株 式 会 社 バ ル カ ー
ス タ ー ラ イ ト 工 業 株 式 会 社	株 式 会 社 フ ロ ロ コ ー ト
ダ イ キ ン フ ァ イ ン テ ッ ク 株 式 会 社	明 興 工 業 株 式 会 社
中 興 化 成 工 業 株 式 会 社	株 式 会 社 陽 和
ニ チ ア ス 株 式 会 社	株 式 会 社 吉 田 S K T
N i K K i F r o n 株 式 会 社	淀 川 ヒ ュ ー テ ッ ク 株 式 会 社

協力会員（ふっ素樹脂製造関係）：4 社

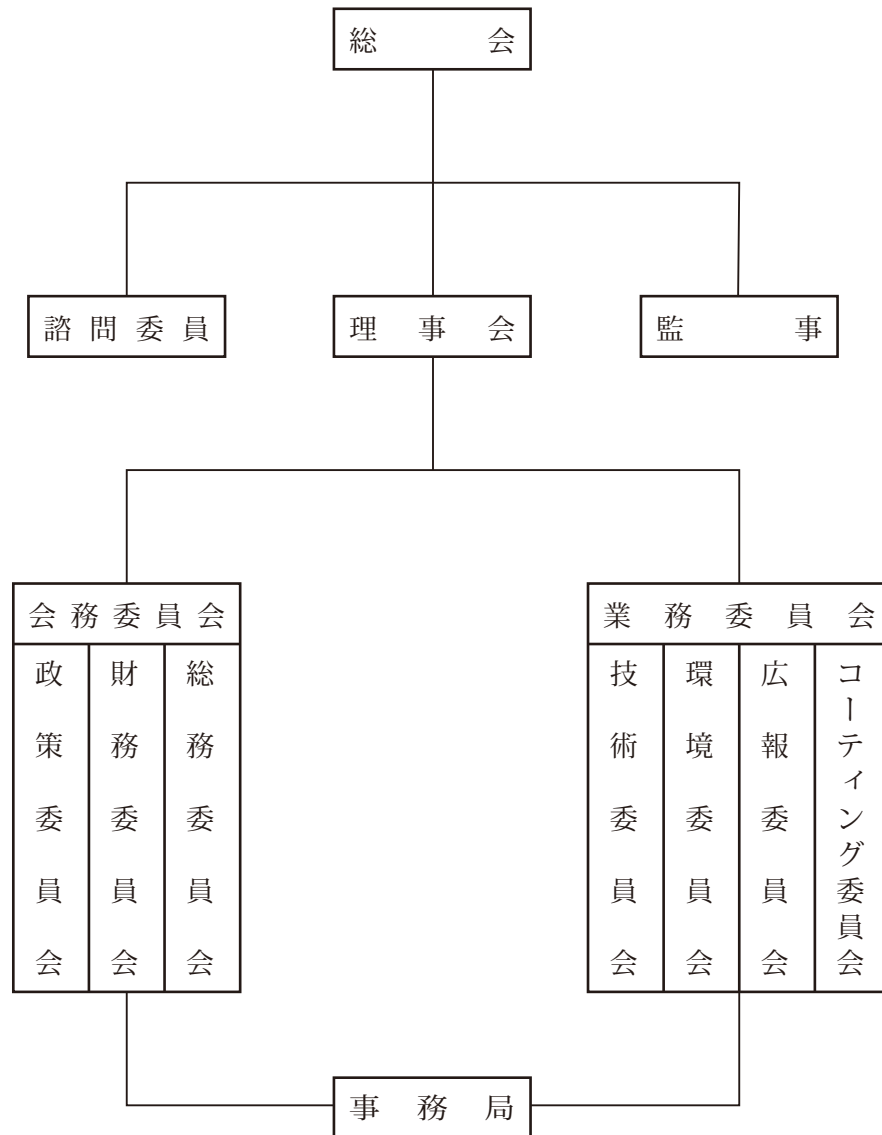
会 社 名	会 社 名
A G C 株 式 会 社	ダ イ キ ン 工 業 株 式 会 社
株 式 会 社 ク レ ハ	三 井 ・ ケ マ ー ズ フ ロ ロ プ ロ ダ ク ツ 株 式 会 社

賛助会員：25 社

会 社 名	会 社 名
ア ル ケ マ 株 式 会 社	田 端 機 械 工 業 株 式 会 社
株 式 会 社 N C ポ リ マ ー	株 式 会 社 テ ク ノ ス
M C 山 三 ポ リ マ ー ズ 株 式 会 社	デュポン・スペシャルティ・プロダクツ株式会社
オ ー ・ エ ス ・ イ ー 株 式 会 社	株 式 会 社 天 源
株 式 会 社 極 東 商 会	ナ ガ セ エ レ ッ ク ス 株 式 会 社
ケ マ ー ズ 株 式 会 社	株 式 会 社 ナ ク ロ
幸 成 商 事 株 式 会 社	日 栄 テ ッ ク 株 式 会 社
C B C 株 式 会 社	古 川 貿 易 株 式 会 社
株 式 会 社 G S I ク レ オ ス	有 限 会 社 丸 新 石 油 化 学
住 友 商 事 ケ ミ カ ル 株 式 会 社	三 井 物 産 株 式 会 社
ス リ ー エ ム ジ ャ パ ン 株 式 会 社	三 井 物 産 プ ラ ス チ ッ ク 株 式 会 社
ソ ル ベ イ ス ペ シ ャ ル テ ィ ポ リ マ ー ズ ジ ャ パ ン 株 式 会 社	三 福 工 業 株 式 会 社
大 日 精 化 工 業 株 式 会 社	

2 . 事 業 組 織

令和 6 年 3 月現在



3. 会 員 及 び 役 員

令和6年3月現在

会 員

会 員 の 種 類	会 員 会 社 数
正 会 員	22 社
協 力 会 員	4 社
賛 助 会 員	25 社
計	51 社

役 員

役 員	会 社 名	氏 名	代 理
会 長	日 本 ピ ラ ー 工 業 株 式 会 社	岩 波 清 久	駒 口 大 造
副 会 長	淀 川 ヒ ュ ー テ ッ ク 株 式 会 社	小 川 克 己	福 本 広 伸
〃	中 興 化 成 工 業 株 式 会 社	庄 野 直 之	原 礼 司
理 事	株 式 会 社 大 野 社	大 野 光 夫	
〃	ス タ ー ラ イ ト 工 業 株 式 会 社	西 郷 隆 志	
〃	N i K K i F r o n 株 式 会 社	春 日 孝 之	
〃	日 星 電 気 株 式 会 社	桐 野 英 彦	木 下 一 秀
〃	ニ チ ア ス 株 式 会 社	亀 津 克 己	美 濃 部 智
監 事	株 式 会 社 フ ロ ロ コ ー ト	諏 訪 部 充 弘	相 沢 哲 夫
〃	株 式 会 社 陽 和	越 出 理 隆	山 田 恭 嗣
専務理事	一 般 社 団 法 人 日 本 弗 素 樹 脂 工 業 会	清 水 潔	

４．委員会及び事務局

委員会

区分	委員会名称	委員長		委員数
		会社名	氏名	
会務委員会	政策委員会	日本ピラー工業株式会社	駒口大造	10
	財務委員会	淀川ヒューテック株式会社	福本広伸	6
	総務委員会	中興化成工業株式会社	原礼司	5
務業委員会	技術委員会	日本ピラー工業株式会社	宮本正樹	11
	環境委員会	ニチアス株式会社	戸塚優子	13
	広報委員会	ニチアス株式会社	田中律	7
	コーティング委員会	日建塗装工業株式会社	鈴木平八郎	7

各委員会及び委員会社名

(五十音順)

委員会名称	委員会社名
政策委員会	大野社、スターライト工業、中興化成工業、NiKKi Fron、ニチアス、日星電気、日本ピラー工業、フロロコート、陽和、淀川ヒューテック
財務委員会	スターライト工業、中興化成工業、ニチアス、日本ピラー工業、フロロコート、淀川ヒューテック
総務委員会	大野社、中興化成工業、フロロコート、陽和、淀川ヒューテック
技術委員会	AGC、大野社、クレハ、スターライト工業、ダイキン工業、中興化成工業、ニチアス、日本ピラー工業、バルカー、三井・ケマーズフロプロダクツ、淀川ヒューテック
環境委員会	AGC、喜多村、クレハ、ダイキン工業、中興化成工業、ニチアス、日建塗装工業、日本ピラー工業、日本フッソ工業、バルカー、フロロコート、三井・ケマーズフロプロダクツ、淀川ヒューテック
広報委員会	スターライト工業、ダイキンファインテック、中興化成工業、ニチアス、日星電気、NiKKi Fron
コーティング委員会	池田テクノコート、イワキコーティング工業、ダイキンファインテック、日建塗装工業、日本フッソ工業、フロロコート、吉田SKT

工業会・事務局

総 括 清 水 潔
 経理及び庶務 野口 時代

5 . 事 業 活 動 状 況

5－1 集会等の総括

集 会 等 の 名 称	回 数	出席者数 (延べ人数)
定時社員総会	1	22
理事会	3	33
会務委員会		
政策委員会	3	33
財務委員会	2	12
総務委員会	2	10
業務委員会		
技術委員会	6	66
環境委員会	6	78
広報委員会	3	21
コーティング委員会	5	35
その他の会議		
プラスチック加工懇談会（日本プラスチック工業連盟 内）	12	—
その他の活動		
第 90 回ふっ素樹脂講習会	1	132
第 91 回ふっ素樹脂講習会	1	153
ふっ素樹脂NEWS（会報） 4 回発行	4	—

5-2 会議

〔総会〕

○定時社員総会

第55回定時社員総会は、令和5年6月7日「如水会館 オリオンルーム」（東京都千代田）において開催した。

定刻、山田総務委員長から、定款第14条の規定に基づき総会の開催を宣言した。また本総会は、議決権を有する正会員22社のうち、18社出席、委任状を提出された会員が4社、計22社となり、定款第18条第1項に規定する総会の議決をするための定足数を満たしており、本総会は、有効に成立していることを報告。

以降、岩波会長が議長になり、挨拶を述べた後、提出されている議案の審議に入った。

第1号議案 事業報告ならびに事業計画について

清水専務理事から工業会の概要等の説明があった。続いて、駒口政策委員長から、令和4年度の工業会事業のうち主要会議の実施状況等の報告があり、続いて令和5年度の工業会全体の事業計画の説明があり、加えて、令和6年度4～6月暫定事業計画について説明があった。以降、順次各業務委員会委員長から令和4年度活動報告及び令和5年度活動計画の説明があった。

岩波議長が、質疑及び意見を求めたところ、全員が異議なく賛成したので、承認された。

第2号議案 決算報告ならびに収支予算について

福本財務委員長から令和4年度収支決算の説明があった。

続いて、諏訪部監事から本決算の会計監査の結果について、適正かつ妥当であることの報告があった。

続いて、福本財務委員長から令和5年度収支決算及び令和6年度4～6月暫定収支予算の説明があった。

岩波議長が、質疑及び意見を求めたところ、全員が異議なく賛成したので、承認された。

第3号議案 役員の選任について

清水専務理事から、現役員の任期満了に伴い、選任案について説明があった。

議長は、本議案を参加各位に諮ったところ、全員が異議なく賛成したので、以下のとおり承認された。

なお、被選任者は、席上その就任を承諾した。

理事 岩波 清久（再任） 小川 克己（再任） 庄野 直之（新任） 大野 光夫（再任） 西郷 隆志（再任）
亀津 克己（再任） 春日 孝之（再任） 桐野 英彦（再任） 清水 潔（再任）

監事 諏訪部 充弘（再任） 越出 理隆（新任）

その他報告事項「欧州 PFAS 規制動向への対応について」

駒口政策委員長から、欧州 PFAS 規制動向への対応について説明があった。

以上、第55回定時社員総会に提出された議案は、全て承認された。

山田総務委員長が11:50に閉会宣言をし、第55回定時社員総会は、終了した。

〔理事会〕

令和5年5月16日、6月7日及び11月7日に開催した。

(第1回) 令和5年5月16日

岩波会長が議長となり会議を主宰した。

定刻、駒口政策委員長が開会を宣し、理事、監事及び委員長各位に対して謝辞を述べた後、定款第32条の規定により会長が議長に当たることになっている旨を述べ、定足数の確認を専務理事に求めた。清水専務理事は、理事会構成員全員の出席があり、定款第33条に規定する理事会の議決をするための定足数を満たしており、本理事会は、有効に成立している旨を述べた。

議事に入る前に、岩波会長から参加各位への謝辞及び理事会開会の挨拶があった。

(1) 第1号議案 「第55回定時社員総会提出資料の審議について」

審議に入る前に、宮本技術委員長代理、戸塚環境委員長、田中広報委員長、鈴木コーティング委員長が順に配布資料の業務委員会活動報告外を基に各委員会の令和4年度活動報告と令和5年度活動計画案を説明した。

①事業報告書(案)の検討

清水専務理事から配布資料の令和4年度事業報告書(案)を基に、工業会の概要、ふっ素樹脂統計、令和5年度事業計画及び令和6年度(4～6月)暫定事業計画他の説明があった。

②決算報告書(案)の検討

福本財務委員長から配布資料の令和4年度決算報告書(案)を基に、令和4年度収支計算書、令和5年度収支予算書及び令和6年度(4～6月)暫定収支予算書について詳細に説明があった。

議長は、本議案に参加各位に諮ったところ、全員が異議なく賛成したので、承認された。

(2) 第2号議案 「役員等の選任案について」

審議に入る前に、清水専務理事から、次期総会での役員等の選任案及びその後の理事会での役職者等の選定案の説明があった。

議長は、本議案に参加各位に諮ったところ、全員が異議なく賛成したので、承認された。

(3) 報告事項「欧州PFAS規制動向への対応について」

駒口政策委員長から、欧州PFAS規制動向への対応について説明があった。

以上で議事が終了したので、岩波議長は、14時30分に閉会の宣言をした。

(第2回) 令和5年6月7日

令和5年6月7日(水) 11:50「如水会館 オリオンルーム」において、理事 9名(総理事数9名)及び監事2名出席のもとに理事会を開催し、下記議案につき可決決定の上、12:00散会した。

山田総務委員長が理事会の開催を宣言し、また、本理事会は、有効に成立していることを報告。以降、岩波理事が議長になり、議案の審議に入った。

議案 役員等の選任について

清水理事から、現役員(代表理事・会長、副会長、専務理事)等の任期満了に伴い、選任案について説明があった。

議長は、本議案に参加各位に以下のとおり諮ったところ、全員が異議なく賛成したので、以下のとおり承認された。

なお、被選任者は、席上その就任を承諾した。

代表理事・会長 岩波 清久（再任）

副会長 小川 克己（再任）

副会長 庄野 直之（新任）

専務理事 清水 潔（再任）

総務委員長 原 礼司（新任）

（他の委員長は、全て再任）

（第3回）令和5年11月7日

岩波会長が議長となり会議を主宰した。

駒口政策委員長が開会を宣し、理事、監事及び委員長各位に対して謝辞を述べる。続いて、理事会は、定款第32条の規定により会長が議長に当たることになっている旨を述べ、清水専務理事へ定足数の確認を求めた。

清水専務理事から、定足数について、委任状を含め理事会構成員全員の出席があり、定款第33条に規定する理事会の議決をするための定足数を満たしており、本理事会は、有効に成立している旨を述べた。

議事に入る前に、岩波会長から参加各位への謝辞及び理事会開会の挨拶があった。

（1）議題第1号「令和5年度上期事業報告及び下期事業計画について」

福本財務委員長から資料1「令和5年度収支決算見込み」を基に、9月までの収支予算の執行状況及び令和5年度収支決算見込を説明した。

続いて、宮本技術委員長、戸塚環境委員長、田中広報委員長及び鈴木コーティング委員長から資料2を基に順に各委員会の令和5年度上期活動報告と下期活動計画について説明があった。

岩波議長は、議題第1号について参加各位に質問及び意見があるかを諮ったところ、全員が異議なく賛成したので承認された。

（2）議題第2号「欧州PFAS規制動向への対応について」（報告事項）

戸塚PFAS協議会TFリーダー（環境委員長）から「欧州PFAS規制動向への対応について」報告があった。

（3）議題第3号「その他①」

岩波議長から、清水専務理事の任期については工業会細則により規定されており、任期2年毎の再任であるが毎年の理事会で決定することとなっている旨説明があった。

来年3月までの理事会で来年度（2024年度）の再任の決定をするところ、理事会開催のスケジュール等を勘案し、本理事会で再任の審議を提案したい旨説明があった。

岩波議長は、本議案について参加各位に質問及び意見があるかを諮ったところ、全員が異議なく賛成したので承認された。

（4）議題第3号「その他②」（報告事項）

清水専務理事から「令和5年度上半期（4～9月）ふっ素樹脂製品出荷額の統計報告があった。

以上で議事が終了したので、岩波議長は、17時00分に閉会の宣言をした。

〔会務委員会〕

1. 政策委員会

令和5年5月16日及び11月7日に開催した。

議事について、理事会と同時開催のため前掲のとおり。

・PFAS協議会

『PFAS協議会』は、以前の『PFOA連絡会』メンバーを主構成メンバーとして、

- ① PFAS規制の他、フッ素樹脂に関わる各種規制動向の定期的情報収集
- ② これら情報に対する協議と、情報の会員企業への共有、講習会開催等を協議
- ③ 工業会に入る各種規制に対する問い合わせ対応

これらを目的として、令和3年(2021年)7月の臨時理事会(書面審議)で承認され、政策委員会の下部組織として発足。

その後、令和5年(2023年)5月、第1回パブコメの一次締切が迫る中、パブコメ活動のスピード化を目的に、同年4月4日に(場所：日本ピラー工業(株) 東京支店) 岩波会長、小川副会長、庄野副会長にもご同席の上で打合せをおこない、PFAS協議会メンバーの再編に加え、『PFASタスクフォース』を結成。

《PFASタスクフォースメンバー》(敬称略)

- リーダー : 戸塚(ニチアス(株)) 代理時 名取(ニチアス(株))
- 委員 : 濱渦(中興化成工業(株)) 代理時 末石(中興化成工業(株))
- 委員 : 飯田(淀川ヒューテック(株)) 代理時 福本(淀川ヒューテック(株))
- 委員 : 福井(日本ピラー工業(株)) 代理時 駒口(日本ピラー工業(株))

《結成目的》

- ① コンタクト可能な団体、個社に対してパブコメ提出促進のロビー活動を推進。
- ② パブコメ提出方法、パブコメ雛形の作成&共有。
- ③ 日本弗素樹脂工業会としてのパブコメ内容協議&提出。

*パブコメに関する活動方針や実活動、タスクフォースメンバーへの指示は戸塚実行リーダーに一任とし、PFOA、PFOSと同様な工業会として発信が必要な内容は政策委員会直下のPFAS協議会で決議とする。

以降、PFASタスクフォースは、1) 2023年4月11日(Web)、2) 2023年4月19日(Web)、3) 2023年4月28日(Web)、4) 2023年5月17日(Web)、5) 2023年5月30日(Web)、6) 2023年6月13日(Web)、7) 2023年6月27日(Web)、8) 2023年7月11日(Web)、9) 2023年7月25日(Web)、10) 2023年9月25日(Web)と10回会議を開催し、パブコメ提出促進のロビー活動(各団体他)、活動概況の共有、説明資料の充実化に関して協議。日本弗素樹脂工業会としてのパブコメは6月末に提出済。

2. 財務委員会

令和5年5月8日及び10月23日に開催した。

(第1回) 令和5年5月8日

議事

(1) 第 55 回定時社員総会提案資料として令和 4 年度決算報告書 (案) を検討し、作成した。

① 令和 4 年度決算を確認し、財務諸表 (案) を作成した。

② 令和 5 年度収支予算案及び令和 6 年度暫定 (4 ~ 6 月) 収支予算案を検討し、作成した。予算案作成に関し、実態に即した収支を計上の上、収支残を予備費として計上した。

(第 2 回) 令和 5 年 10 月 23 日

議事

(1) 令和 5 年度収支状況について

清水専務理事から令和 5 年 4 月から令和 5 年 9 月までの収支実績及び 10 月以降の収支見込みについて、増減の要因等詳細な説明があり、討議し了承された。

同内容については、財務委員長が 11 月 7 日開催の理事会・政策委員会に報告することとした。

(2) 来年度以降の財務状況の見通しについて

財務状況について、過去からの会員入退会の状況、事業の実施状況と繰越金の実績推移等変動要因等から、来年度以降の財務の動向を議論した。

3. 総務委員会

令和 6 年 3 月 6 日 (第 1 回) 及び 3 月 31 日 (第 2 回)、賛助会員の退会届を受け、書面により審議を行った。

〔業務委員会〕

1. 技術委員会

令和 5 年 5 月 11 日、7 月 4 日、9 月 8 日、10 月 25 日 12 月 22 日、令和 6 年 2 月 21 日に開催した。

(第 1 回) 令和 5 年 5 月 11 日 WEB 会議

議事

(1) 前回議事録の承認

2022 年度第 5 回技術委員会議事録は、メール回覧にて承認。

(2) 欧州環境規制情報共有

4/4 (火) に、PFAS 協議会説明会を日本ピラー工業㈱東京支店にて開催。今後の方向性、体制について討議合せが開催される。PFAS タスクフォースが発足。

PFAS 協議会から技術委員会に対して、一部の他工業会の PFAS 対応窓口の分担要請があり、技術委員会で以下の担当分けを実施した。

- ・日本化学工業会対応：野邊委員、新田委員、倉本委員、宮本
- ・カテゴリー 8 & 9 協議会：淵上委員、小門委員、大前委員、宮本

カテゴリー 8 & 9 協議会と、5/18 (木) 13:00 Web 打合せが予定されている事を共有した。

(3) H. P への問合せ

特になし。

(4) プラスチック工業連盟関連報告

- ・3/1: TC61/SC11 議長の任期 3 年延長に関する投票→日本としての賛成投票に同意しコメントせず。

・4/27：TC61/SC1 議長の任期3年延長に関する投票→日本としての賛成投票に同意しコメントせず。

(5) IS 規格の改定審議について

2023年度 JIS 原案作成公募 区分C 募集について 応募せず。

(6) ハンドブック改定作業

第4章 (P13～P44) の修正部分の再確認ならびに、新たな修正部分について討議を実施した。

第5章 (P45以降) についての分担パートについて各社の事業に沿った分担となる様に、再分担についての打合せを実施。5/19 (金) までに、先着順に担当ページを分担頂くこととした。規格に関する P163～P165 については、一旦分担決めを保留とした。

(第2回) 令和5年7月4日 WEB 会議

議事

(1) 欧州環境規制情報共有

5/18、カテ8 & 9 連絡会との Web 情報交換会にて JFIA 会員企業の製品についての特性などについて説明を実施した。技術委員会メンバーの協力のもと、製品群別のパブコメ参考資料を作成し、カテ8 & 9 連絡会と日化協に提出した。また、カテ8 & 9 連絡会からの質問については Q & A 資料を提出済み。7/5 (水) 以降の連絡会への当工業会への出席は不要との連絡を頂いた。

(2) H. P への問合せ

特になし。

(3) プラスチック工業連盟関連報告

6/12：TC61/SC5 (CIB) Scoope に関して、日本としての賛成投票意向に同意し、コメントせず。

(4) JIS 規格の改定審議について

特になし。

(5) ハンドブック改定作業

第4章 (P13～P44) の再検討部分を確認しチェック完了とした。

第5章 (P45～P75) についての検討を実施し、一部再検討として、一旦確認作業を完了した。

(第3回) 令和5年9月8日 WEB 会議

議事

(1) 欧州環境規制情報共有

7/31、カテ8 & 9 連絡会から、当工業会技術委員会が作成したパブコメ参考資料の転載許可に対して問題無き事をお伝えした。

(2) H. P への問合せ

常温下に於ける結晶の乱れによる PTFE の浸透性の影響について 対応済み

(3) プラスチック工業連盟関連報告

- ・7/5：TC61/SC11 (CIB) Scoope に関して、日本としての賛成投票意向に同意し、コメントせず。
- ・7/7：TC61 技術委員会に出席。
- ・8/2：TC61SC9 国内委員会欠席。
- ・9/1：TC61 代表団会議 (Web) 出席

(4) JIS 規格の改定審議について

2023 年度 JIS 原案作成公募 区分 D 募集について 応募せず。

今年度改定が必要な JIS 規格としてプラ工連に連絡する対象規格はなし。

来年度は 4 件有り（最終公示 2020 年の規格）。

(5) ハンドブック改定作業

第 6 章（P76 ～ P116）についての討議を実施。 一部（欠席者担当頁）は次回委員会にて討議予定。

(第 4 回) 令和 5 年 10 月 25 日

議事

(1) 欧州環境規制情報共有

技術委員会が対応している カテ 8 & 9 連絡会、ならびに日化工については特に動きなし。

(2) H. P への問合せ

常温下に於ける結晶の乱れによる PTFE の浸透性の影響について追加の質問が到来

対応済み（詳細内容につき取引樹脂メーカー、ライニングメーカーに質問頂く）

(3) プラスチック工業連盟関連報告

- ・ 2023 年度 TC61 国際会議が 9/25 ～ 29 日ストックホルム／スウェーデンにて実開催。

ふっ素樹脂については、TC61/SC9/WG22 が解散（休止状態）のため会議体なし。

- ・ 10/9：TC61/SC1 5536 (CIB) に関して、日本としての賛成投票意向に同意し、コメントせず（≡賛成）。

(4) JIS 規格の改定審議について

- ・ 2024 年度 JIS 原案作成公募 区分 A 募集に対して応募せず。

- ・ 来年度は 4 件の定期改定対処規格有り（最終公示 2020 年の規格）。

(5) ハンドブック改定作業

- ・ ASTM 規格（2023 ANNUAL BOOK OF ASTM STANDARDS）の購入 & 情報共有。

- ・ 主に第 7 章～第 9 章と、参考資料（P145 ～ P167）の改定審議に加えて、第 5 章、第 6 章の未審議部分についての討議を実施。

(第 5 回) 令和 5 年 12 月 22 日 WebEx 会議（ハイブリッド開催）

議事

(1) 欧州環境規制情報共有

特になし。

(2) H. P への問合せ

- ・ 東亜合成株より弗素ライニング時の Ca 元素の溶出について相談（3 度目）が到来。

PTFE の素材自身より、コーティングと金属素地の間にあるガラス繊維（布）ならびに、作業（人）由来の可能性をコメント。 対応済み（ライニングメーカーに質問頂く）

- ・ JFIA 発行ふっ素樹脂製品取扱マニュアルの、表 1.2 最高使用温度（連続耐熱温度）の項について問合せ有り。JIS K7226 は何の特性を計測しているか？、引用文献は何か？

対応済み（質問内容は全て JIS K7226 に記載有り）

再質問に対応中。

(3) プラスチック工業連盟関連報告

- ・12/15 スtockホルム／スウェーデン(9/25～29)にて実開催されたTC61 国際会議の報告会(Web)に出席。 ふっ素樹脂については、TC61/SC9/WG22 が解散(休止状態)のため会議体なし。

Webを含めると出席者の約50%が日本(実参加63人)。マイクロプラスチック分析法、他の討議あり。

(4) JIS 規格の改定審議について

特になし。

(5) ハンドブック改定作業

- ・第1章～第7章までを、整理のための再読み合わせチェックを実施。
- ・「まえがき」に法規などに関する追記を行うこととした。
- ・暫定完成章についてファイルを委員間で共有する。(時期：一部修正後、年明け予定)

(第6回) 令和6年2月21日

議事

- ・2/7(面直)、2/14(Web)にて経産省委託事業(ワルツコンサルティング)よりPFAS規制対応としてPFAS測定方法などに関する規格化(JIS)に関するヒアリングが実施された。

当工業会からは、(清水専務理事、戸塚環境委員長、鈴木コーティング委員長、名取氏、宮本)出席。

概要：PFAS規制に対してPFAS測定のための規格化、ならびに、現状の弗素樹脂に関わる13規格のJISに対する影響について。(内容見直しの是非、担当組織、等)

(1) H. Pへの問合せ

- ・JFIA発行ふっ素樹脂製品取扱マニュアルの、表1.2 最高使用温度(連続耐熱温度)の項について問合せ有り。JIS K7226は何の特性を計測しているか?、引用文献は何か?

対応済み(質問内容は全てJIS K7226に記載有り)

再質問に対して、委員(樹脂メーカー)の協力も頂き、1/5に処理済み、その後連絡なし

(2) プラスチック工業連盟関連報告

- ・1/26: TC61 技術委員会(Web)に出席。当委員会に影響する内容は特になし。

(3) IS 規格の改定審議について

- ・2024年度JIS原案作成公募区分B募集に対して応募せず。

(4) ハンドブック改定作業

- ・P107の表6.10の温度条件、ならびに材質別の特性値を、DuPont社1992年発行Filled compounds of Teflon® PTFEカタログ値に従い修正を実施した。
- ・P21の表4.2の温度条件、ならびに材質別の特性値については、ケマーズ殿資料(テフロン実用ハンドブック)に従い、後日宮本にて修正した資料を共有することとした。
- ・参考資料1(材料試験法の概要)について修正作業を実施。参考資料2(各種規格一覧)については可能な範囲で適切な情報に修正することとし、委員より修正案資料を送付頂くこととした。

2. 環境委員会

令和5年5月23日、7月25日、9月26日、11月21日、令和6年1月23日、3月19日に開催した。

(第1回) 令和5年5月23日 WEB 会議

議事

前回議事録 参加委員により、承認された。

ふっ素樹脂の LCA 算出について

- ・株式会社フルハシ環境総合研究所久野さまより、当研究所の事業紹介と LCA 算定代行業務について、ご説明いただいた。
- ・工業会より代行依頼した LCA 算定仕様の概略は以下のとおり。

対象製品：弗素樹脂素材製品算定対象：材料調達～製造

算定方法：供給したデータを整理、LCA データベース IDEA 搭載の算定ソフト、MiLCA に入力して GHG を算出する。

収集項目：原材料の年間使用料、輸送に関する情報、梱包材・副資材、工場年間生産量、算定商品の年間生産量、電力・燃料・用水の年間消費、廃棄物・排出物の年間発生量、製品出荷輸送に関する情報等。

進め方：秘密保持契約の締結⇒7月データ調査票準備、8月データ調査票への入力、9月提供データ整理、10月算定ソフトへの入力・検証、11月算定結果をまとめ、報告いただく。

- ・LCA 算定に参加する企業は、中興化成、日本ピラー、淀川ヒューテック、ニチアスの4社。フルハシ環境総研さまには製造工程を見学いただく。

(受け入れは淀川ヒューテック)

- ・基本は IDEA の Ver3.0 で算定する。
- ・秘密保持契約は各社とフルハシ環境総合研究所で結ぶ。工業会との業務委託契約書契約も必要となる。
- ・各個社には個別に算出結果をフルハシ環境総研から頂く。4社の生産量で案分したものが、工業会の成果物として共有可能となる。
- ・基本国内データで収集をお願いする。

(以下、質疑)

戸塚委員長：原材料の原単位が大きい。イメージがつくのが大きい。

井手委員：他の樹脂に比べてフッ素樹脂が、ということなら不利。削減のベースをミエル化できる。企業努力で削減することが世の中に受けると思う。

ふっ素樹脂 PR のための広報活動

PFAS 制限案に対して

- ・PFAS 規制案に対する見解書を工業会としてまとめ、ECHA のパブコメへ提出する。
- ・中興化成、濱渦委員よりドラフトの説明を頂いた。見解書で訴求するポイントは以下。
- ・一括規制案には賛同できない。フッ素樹脂はほかの PFAS と性質が異なる。除外されるべき。
- ・FCJ の見解書を指示する。(特に、PFAS サブカテゴリーを明示し、ECHA に提言)
- ・FCJ の提言するサブカテゴリーについて補強する形で、環境懸念があるものを分類。
- ・内容については、JFIA の PFAS タスクフォース、FCJ とも確認済。
- ・各会員さまには、この見解書を使い、パブコメで引用するようにお願いする。

- ・パブコメ提出を躊躇うお客様へは、この見解書をお渡しし、パブコメ参加という最低限の行動をお願いしたい。
- ・見解書が完成したら工業会から会員各社へ送る。
- ・工業会ホームページへの掲載は、PFAS 連絡会で共有・承認頂いた後、手続きへ進める。

(以下、質疑)

大西委員：PLC (Polymers of Low concern) の分子量閾値について、見解書では 10 万 Da となっているが、最近の Buck らが更新した文献では、1 万 Da と変更している。見解書内で同じ表現にするか。検討願う。

戸塚委員長：検討いたします。

大西委員：L - PFAS という新しいターム。Long Chain の L ともとられる。POPROC の専門家が見ると、長鎖 PFCA と混同しかねない。

濱渦委員：そこは考慮済。L-PFAS というタームは、Long Chain PFCA も含む表現として使っている。

その他

- ・第 11 版弗素樹脂製品取り扱いマニュアルで改訂が必要な個所を、各委員にてチェックし、6 月 30 日までに改訂箇所・内容を工業会へ連絡いただく。

(第 2 回) 令和 5 年 7 月 25 日 WEB 会議

議事前回議事録

参加委員により、承認された。

PFAS 関連の情報共有

2-1) 欧州 PFAS 制限案に対する対応の連絡

- ・PFAS 規制案に対する見解書を工業会としてまとめ、ECHA のパブコメへ提出した (6 月 27 日)

コメント要旨：水溶性の副生物は生成しない、ポリマーは生体に取り込まれない。

⇒ フッ素樹脂は規制対象から除外されるべきである。

2-2) その他

- ・国内の二つの専門家会議についての開催状況、8 月の RAC,SEAC のスケジュール等が共有された。

フッ素樹脂 LCA

- ・成型品製造時の LCCO2 算出について業務委託契約が終了
- ・8 月上旬に成形工程を見学し、データ収集を開始する予定
- ・塩ビ協会の公開資料に比べるとフッ素樹脂で同様のデータを抽出するのは難しいが、数字が出たところで再度検討する。

フッ素樹脂製品取り扱いマニュアル改訂

- ・改訂の理由：食品衛生法改訂 WTO 通報はされているので、国内の Positive List も近いうちに Update される見込み。
- ・改訂検討箇所：
 - 別表第 1 の Update (検討可能か)
 - PFOA,PFOS に関する記載内容

廃棄物の処理（記載内容の簡略化）

フッ素樹脂中の重金属等について（情報の Update）

- ・最終版は次回の委員会でチェックする予定

フッ素樹脂廃棄物の再資源化

- ・前回の会議までに各社から頂いた資料をベースに第 11 版フッ素樹脂製品取り扱いマニュアルで改訂が必要な個所を Update した。

（第 3 回）令和 5 年 9 月 26 日 WEB 会議

議事前回議事録

参加委員により、承認された。

担当者変更

（株）クレハ 白井様→後藤様

PFAS 関連の情報共有

3-1) パプコメ時期終了

- ・FCJ の HP では 8/22 の状況までの提出状況が掲載されている。
現状 2,896 件だが、更に件数は伸びている。
- ・弗素樹脂工業会はどう動いていくのか
今回、パプコメ協力頂いた団体にお礼を含めて訪問する必要あり。
今後、色々な問題が出てきたら、都度対応を考える必要がある。

3-2) その他

- ・「特定 PFAS」の表現について
経済産業省の素材産業課は区別する表現には賛成だが、化審法を取り仕切る化学物質管理課や環境省からは「特定」という表現について、定義は何かという点と「特定」がつくと法律表現で聞こえるが、お墨付きは出せないとコメント有。
今後、どう表現されていくかわからないが、当面は弗素樹脂工業会の説明資料内では特定 PFAS と表現する。
- ・HP に弗素樹脂 Q & A を掲載
PFAS 概念図の注釈に、OECD でフッ素樹脂が低懸念ポリマーと表現されている内容のコメントを入れる。

フッ素樹脂 LCA

- ・データ提出は 10/14 まで

フッ素樹脂製品取り扱いマニュアル改訂

- ・改訂履歴を入れるようにする。
- ・ハンドブック 14 版の内容を正で進める。
- ・10/31 までに改定内容をチェックし、戸塚委員長に報告する。
変更有の場合は、WORD で提出のこと。

(第4回) 令和5年11月21日 WEB 会議

議事前回議事録の確認

前回議事録内容については特に異論なし、参加委員により承認

PFAS 関連の情報共有

(1) 欧州 PFAS 制限案パブコメ対応について

- ・パブコメ期間終了、パブコメ対応してもらった各業界団体へのお礼メールを送付予定
- ・必要に応じて清水専務理事とともに団体を訪問も予定する

(2) 欧州 PFAS 制限案の動向について

- ・パブコメの総数は約 5600 件、パブコメでは過去最大の件数であったため、パブコメへの対応にはかなりの時間がかかると思われる
- ・来年の欧州 REACH 関連スケジュールでは PFAS 関連の会議等は予定されていない。

PFAS 関連議論の再開は再来年以降となると考えられる

(3) その他 PFAS 関連・コメント等

- ・FCJ の最終パブコメでは特定の PFAS のみに懸念があるとの見解も加えられている
⇒ SDA(階層双極子アレー) 理論を基に考察すると鎖長が長いと毒性が低い傾向
検討の初期段階にあり今後、疫学的な議論がされることとなる
- ・欧州での PFAS の代替化の進み具合はどのようなになっているか
⇒詳細な情報は特になし、例えば自動車メーカーなどは上市までに長期間かかるため上市段階になって使用できないことをさけるため、情報収集をしている
- ・TSCA に関する情報発信も含め FCJ でもウェビナーを開催予定
- ・公官庁との会話では「特定 PFAS」と呼称することについては問題がないとの見解
関係業界から「特定 PFAS」を発信してほしいとの意向。今後も協議していく

ふっ素樹脂の LCA 算出の活動状況共有

- ・フルハシへ各社調査シートを提出済み。今後、各社へ詳細確認面談予定
- ・面談後、各社の生産量(重量)に応じた加重平均を使って最終データを算出予定
- ・次回、フルハシから説明をいただく予定

ふっ素樹脂取扱いマニュアルの改訂について

(1) 改訂内容確認・状況について

- ・各担当が内容を確認・修正実施、大きな改訂点としては PFOA・PFOS 記載部分の改訂と二次加工場の注意としてコーティング加工を追加
- ・食品衛生法改正内容については掲載しない。改正内容掲載は R6 年 5/E の改正後に実施する
- ・「特定 PFAS」の名称は次回改訂時から使用する
- ・次回、食品衛生法改正内容についてダイキン工業(株)津田氏より説明いただく予定

再確認・修正事項

- ・樹脂中の重金属含有量については樹脂メーカーに確認
- ・「フードのタイプ・排気量の計算」表については作り直す

(2) その他質問・コメント等

- ・食品衛生法改正内容について環境委員以外のメンバーについての対応をどうするか？

⇒ダイキン工業(株) 殿から環境委員会へ説明を受けた後に、同様の説明をしてもらうか、環境委員会から説明をするかを検討する。令和6年活動として環境委員会からの周知活動とする

⇒前は WG で決まった内容を会員へ伝達したとのこと。

(食品用器具及び容器包装の製造等における安全性確保に関する指針(ガイドライン))

- ・食品衛生法の告示日は R5 中予定とあるが、別途ポジティブリストについての通知はあるか
⇒ 10/4 掲載案が最終案。正式案内文は別途出ると思われるが内容は変わらない。
- ・ポジティブリスト案が出ているので正式アナウンスを待たずに各社で対応・適合性をみていかないといけないのではないか。内容によっては厚労省へ意見する必要があるのでは。
⇒パブコメにて意見提出は終了している。今後は理解を深めることが重要。環境委員会にて内容をよく理解し、会員企業へ伝達する必要がある

廃棄物 / リサイクル調査について

- ・今年度のふっ素樹脂廃棄物 / リサイクル調査は前年度同様の内容とする
- ・有価化売却状況・包装容器処理状況の記載内容より工業会としての要望を検討する

(第5回) 令和6年1月23日 WEB 会議

議事 前回議事録の確認

前回議事録内容については特に異論なし、参加委員により承認

フルハシ環境総合研究所によるふっ素樹脂成形にかかわる LCCO2 算出結果の報告

フルハシ・久野様より説明いただく。

- 今回提出頂いた報告書は ISO14040 (2006) 及び ISO14044(2006) ライフサイクルアセスメントの規格に基づいた報告書であること。
- 目的は、PTFE 素材製品の原材料調達から製造、出荷輸送に至るまでの単位料あたりの GHG 排出量 (CO2 等価量) の設定としたこと。
- 生産会社 4 社の生産実績量 (2022 年 4 月～ 2023 年 3 月) の加重平均で算定。
- SuMPO 開発の LCA 計算ソフトウェア MiLCA で実施。IDEA に掲載されている最新年度データを使用。
- PTFE 素材製品 1kg あたりの原材料調達から製造、出荷輸送までのインベントリ分析の結果および影響評価の結果から本 LCA の評価範囲において、地球温暖化に関する環境影響負荷が大きい工程は「原材料調達」「製造」段階であることが明らかになった。
- 製造時の電力の 50% を再生可能エネルギーにより発電された電力に変更した場合の感度分析を行い、環境影響評価結果への変化を検証した結果より、「製造」での GHG 排出量が 1.484kg-CO2e 減少することを確認。ふっ素樹脂素材製品の生産のライフサイクル全体における GHG 排出量の削減に寄与することが示唆された。

<質疑応答>

- ・今回の算出に使用した IDEA の PTFE 樹脂の原単位は 6.38(PTFE 樹脂を作るものの代表値)。構成は PTFE(ホタル石と塩化メチレンから製造) を異なる製法からどの製法を採用するかは IDEA で決定し、積み上げデータとなっている。

実際の数字との乖離は、歩留まりや調達先からの輸送などが加味されている。

- ・GHG 排出量を算定に使用する電力データに全国平均を用いたデータを使用することは可能。その

場合は 2018 年 (最新) の全国平均のデータを使用する。それにより、算定に参加していない工業会各社も利用できる数値とすることができる。

- ・全国平均データを使用した GHG 排出量の結果は報告書内に参考データとして記載する。
- ・3 ページの PTFE の説明及び原料の写真は工業会から資料を提示する。
- ・報告書に修正が必要な箇所があれば、来週 (1/31) までに赤字を入れて連絡ください。
- ・再生可能エネルギーとして使用されたデータは太陽光発電で発電したデータを採用。極めてゼロに近い数値。報告書では、「再エネ」より「太陽光発電」に変更する
- ・報告書のダイジェスト版のような資料の作成を要望した。

- 結果を HP 上に公開の有無について、次回協議する。
- 他の樹脂と比較すると、LCCO2 排出量が高いと言わざるを得ない。

耐久性 (製品のライフサイクル、廃棄量など) をシュミレーションしたティピカルなモデルケースを作成し、今後有用な資料になっていく。

- 算定に参加した 4 社は、特に 5 ページのシステム境界を確認ください。

改正食品衛生法の解説

ダイキン工業 (株) 津田様より資料を基に説明いただく。

- 2023 年 11 月 30 日に最終的な形の説明
- 「食品容器具・容器包装のポジティブリスト制度について」2025 年 5 月末に経過措置期間が終了するため、最終的な形が決まり、厚労省の HP 公開された内容を抜粋して説明
- 主な改正点
 - ・今回の改正によりフッ素樹脂に関連する、基ポリマーおよび添加剤で使用できなくなるものはない。
 - ・基材ポリマーの耐熱区分、食品区分の区分はなくなった。食品衛生上の危害が発生する場合は、個別に製造者の方から顧客へ情報伝達することになっている。⇒事業者の責任が厳しくなった。
 - ・基ポリマー⇒基材に変更。使用可能なモノマーの組み合わせで、従来羅列されていたポリマーを表す。2%未満のモノマーについては、任意になった。
 - ・樹脂区分 7 区分⇒5 区分に変更。
 - ・第 2 表の添加剤は有機物のみ。天然物や無機物質などは管理対象から外れるがリスクアセスメントをした上で従来通り使用可能。
 - ・製造管理・情報伝達では、①公衆衛生必要な措置に関する基準と②食品衛生上の危害発生を防止するために必要な適正に製造を管理するための取組に関する基準を整理して、厚労省令 149 号にまとめられた。

<質疑応答>

- ・省令 149 号の資料は、変更になった内容。2025 年 6 月以降。
- ・実績がない、最高温度を超えて使用する場合や添加剤の配合を変更する場合などは、リスクアセスメントを行い、新規申請が必要。
- ・現在、Q & A を準備中なので、確認でき次第情報を共有する。
- ・ふっ素樹脂ハンドブック改定 14 版 7 ページにモノマーの構成が記載されている。
不明な時は川上のポリマーメーカーに確認してください。
- ・情報伝達の部分のウェイトが大きくなり、温度条件、使用条件を付ける必要がある。1 年半で回答

方法（書式など）を検討する必要がある。加えて法改正の前後で、ステータスが変わらない旨の記載が必要か。

- ・環境委員会だけでなく、工業会全体に法改正についての情報を共有する必要がある。⇒弗素樹脂工業会の講習会で説明いただく。
- ・ポジティブリスト制度開始の際に作成したガイドラインの見直しを行う。併せて、ふっ素樹脂マニュアルの修正も行う。

●営業届け出の通知について内容を確認する（戸塚委員長より資料は配信する）

ふっ素樹脂取扱いマニュアル改訂

●修正内容の確認

- ・序文は法規等の改訂による全体的な見直しとふっ素樹脂コーティング加工上の注意点の追記に変更
- ・第1章 3.生産量および需要動向の推移の統計データは最新版へ入れ替える。
- ・第2章 2.2 コーティングを追加
- ・4.2 食品衛生上の安全性 食品衛生法の法改正は、次回の改訂で行う。自主ガイドラインの URL へ移動できるように修正する。
- ・5 項廃棄物の処理において、遮断型はないので削除。
- ・食品衛生法の改正は盛り込まず、次回改訂で行う。
- ・附属資料 B 換気の項目 表 B の排風量の数値の見直しと単位 m³/min に変更。出典を追記。
- ・附属資料 C ふっ素樹脂中の重金属の分析データについては、次回までに確認いただく。
- ・修正点は名取氏へ 2/1 までに連絡。

原材料・製品中特定 P F A S 等の測定方法の標準化 WG の提案

- ・戸塚委員長より、原材料・製品中の特定 PFAS 等の測定方法の標準化が必要と考えるので WG の立ち上げを提案があった。
- ・現状、特定 PFAS 分析において、工業用水や水道水中などの液体中の特定 PFAS の分析は標準化されているが、原料パウダーおよび製品中の特定 PFAS の測定方法については、標準化されていない。
- ・パウダー中の PFAS を複数の分析機関で測定した結果、数値が大きく異なることとなった。要因を追求する中で、前処理の条件により PFOA の抽出量が異なることが確認された。過剰や過小な前処理により得られる数値が異なる。また非意図的に発生した PFAS が測定され、製品管理や規制対応の適合可否に混乱が生じる可能性があるので、分析を正しくするために業界全体で技術を共有化していくための提案。
- ・標準化に際しては、弗素樹脂工業会が進めることで、恣意的と取られないように、公的にすべきと考える。
- ・これまでの BAT 報告を行った試験に影響が出てくるところが気になる。
- ・環境員会としては、WG を作る方向で進めることで合意した。
- ・WG の参加有無を報告ください。
- ・WG のリーダーは名取氏とする。

(第6回) 令和6年3月19日 WEB 会議

議事前回議事録の確認

前回議事録内容について特に異論なし(一部、字句修正)。参加委員により承認。

ふっ素樹脂取扱いマニュアルの改訂

改定時の変更履歴を作成した。

工業会で表紙を用意し公開する。

フルハシ環境総合研究所によるふっ素樹脂成形品製造時の LCCO₂ 算出結果

「ふっ素樹脂素材製品に関する LCA 報告書」が完成(2024年2月付け)。GHG 排出量全体(10.185)の内、原材料調達段階が 6.853(全体の約 67%)、製造段階(二次加工)が 2.985(全体の約 29%)を占めた。

数値の目標設定は難しいが、他の樹脂と比較して高い値であり、各段階で削減が必要。算出数値だけで公開する訳にはいかず、フッ素樹脂ならではの魅力を表現できるシナリオが必要。シナリオ作りは中興化成、淀川ヒューテック、日本ピラーが担当。ふっ素樹脂のライフサイクルの長さが、最大のセールスポイントになると思われる。秋頃に算出結果を公開予定。

令和4年度 ふっ素樹脂廃棄物/リサイクル調査報告書(案)

【廃棄物量】過去10年間で最も多く、増加傾向が続いている。

【廃棄内訳】工業会全体において外部委託処分は 29.7%、有価売却は 68.6%、再生は 1.7%。

【樹脂別内訳】PTFE: 59.0%、ETFE: 21.3%、PFA: 15/3%、FEP: 3.4%、PVdF: 1.0%。

【廃棄内訳】どの樹脂でも有価売却が多くを占める。PFAのみ再生(自社・委託)がなされ、10.4%を占めた。正味のふっ素樹脂量に換算した場合の廃棄内訳では、外部委託処分は 23.4%、有価売却 74.7%、再生処理 1.9%となり、この場合も PTFE が最も多く 54.6%を占めた。

【リサイクル率】正味のふっ素樹脂量に換算したリサイクル率は 76.4%であり、過去10年平均リサイクル率(76.3%)と同様。

【処分理由】半数以上が「分別できない」を理由としている。

【処分方法】埋立(安定型・管理型)による処分が 50%、焼却による処分が 25%、その他 25%。

【処分単価】上昇傾向が続いており、10年で2倍以上となっている。

【アンケート結果・工業会の対応】

- ・廃棄物削減の取組として有価売却が進められている
- ・ふっ素樹脂原料容器(ファイバードラム)の廃棄・処理に苦慮している状況が続いている
 - 工業会からメーカーに対策の要望を試みる
- ・工業会として廃棄物削減活動に寄与できる様、情報の共有化や共通課題解決に向けた働きかけ・取組などを検討する
 - 広く展開できそうな情報に関しては、情報提供企業に共有の可否を確認し、許可が得られれば情報展開する

原材料・製品中特定 PFAS 等の測定方法の標準化 WG の設置について

経済産業省(調査委託先: 株式会社オウルズコンサルティンググループ)による PFAS 関連の調査結果を参考にしたい。いずれにしても WG 立ち上げは来期で、各国の PFAS 規制動向調査は行う。

食品衛生法関係

質問に対する厚生労働省からの回答待ち。回答内容は情報共有する予定。

令和6年度の活動

以下、6項目を予定

1. ふっ素樹脂広報活動
2. ふっ素樹脂成形品製造時の LCCO2 算出結果の公開
3. ふっ素樹脂製品のリサイクルに向けた回収・表示制度調査
4. 各国 PFAS 規制動向調査
5. 食品衛生法改正関連のふっ素樹脂取扱いマニュアル等の変更
6. その他

3. 広報委員会

令和5年8月3日、9月6日、令和6年1月18日に開催した。

(第1回) 令和5年8月3日

1. 議事第91回開催のふっ素樹脂講習会について、テーマについて検討。

各委員から、可能性のあるテーマの関係先との調整状況について報告あり。

ただし、依然テーマ確定まで調整が進まず、引き続き交渉を継続することとし、後日、委員長から結果を周知することとした。

また、今後の講習会実施に向けてのスケジュール等について情報共有した。

(第2回) 令和5年9月6日

1. 議事第91回開催のふっ素樹脂講習会について、テーマについて検討。

各委員から、可能性のあるテーマの関係先との調整状況について報告あり。

ただし、依然テーマ確定まで調整が進まず、引き続き交渉を継続することとし、後日、委員長から結果を周知することとした。

また、今後の講習会実施に向けてのスケジュール等について情報共有した。

(第3回) 令和6年1月18日

1. 議事第92回開催のふっ素樹脂講習会について、テーマについて検討。

各委員から、可能性のあるテーマについて報告あり。

ただし、テーマ選定まで調整が進まず、引き続きテーマ検討を継続することとし、後日、委員長から結果を周知することとした。

また、今後の講習会実施に向けてのスケジュール等について情報共有した。

第90回ふっ素樹脂講習会開催概要

開催日時：令和5年7月3日～7月28日

開催方式：動画配信

◇ふっ素樹脂の基礎と応用

A G C 株式会社

胡桃沢 健 氏

◇ふっ素樹脂の市場動向

ダイキン工業株式会社

森上 皇二 氏

◇自動車業界で起きている EV 化の現状と弗素樹脂市場への影響

オートインサイト株式会社

鶴原 吉郎 氏

◇欧州 PFAS 制限案の概要及びパブリックコンサルテーションの対応について

日本フロロケミカルプロダクト協議会

池田 司 氏

◇医療部材メーカーに求められるもの

日本医療機器テクノロジー協会 (MTJAPAN)

高橋 尊 氏

第 91 回ふっ素樹脂講習会開催概要

開催日時：令和 5 年 12 月 1 日～12 月 25 日

開催方式：動画配信

◇ふっ素樹脂の基礎と応用

三井・ケマーズフロロプロダクツ株式会社

恩田 輝明 氏

◇ふっ素樹脂の市場動向

A G C 株式会社

熊谷 吉昭 氏

◇PFAS 規制の背景にある欧米の環境政策の動向

◇変化の時を迎える半導体

株式会社三井物産戦略研究所

小川 玲奈 氏

◇機能性ふっ素樹脂の分解・再資源化反応の開発

神奈川大学

堀 久男 氏

4. コーティング委員会

令和 5 年 4 月 14 日、6 月 9 日、8 月 23 日、10 月 26 日、令和 6 年 2 月 7 日に開催した。

(第 1 回) 令和 5 年 4 月 14 日

(1) 事 PFAS 規制関連について

○情報共有

- ・2023/2/15～4/13 に行われた弗工会、PFAS 協議会、および環境委員会の会合、その他期間中に得られた PFAS 関連の情報や資料を共有した。
- ・3/7 FCJ による REACH 制限案内容説明会
議事録は関係者へすでに回付されているとのこと。
→入手次第、コーティング委員会で速報として共有した議事メモと差替える。
- ・4/4PFAS 規制に関する打合せ
議事録が発行されたので、コーティング委員会で速報として共有した議事メモと差替えた。
- ・コーティング委員会における共有先について
委員会に属さないコーターへの共有は？
重要な情報や資料は随時事務局から会員各社へ提供されている。そのため当委員会における共有は委員会メンバーの 7 社までを対象とする事とした。
- ・弗工会情報共有フォルダ
2023/4/3 より運用されており、PFAS 協議会メンバーなどが利用できる状況にある。現在はアカウント数の制限があるため、当面は閲覧可能な会員がメンバーへ共有を行う。

○コーティング委員会としての対応について

- ・PFAS 連絡会から提示のあったパブコメ依頼訪問の団体リストについては、本委員会では先日発足した

タスクフォースでの活動に委ね、要請がない限りは静観の姿勢をとることで一致した。

- ・コーター独自の活動や共同戦線を望む声もあるが、コーター間の企業秘密に触れることを懸念して断念。
→各社での対応が難しい場合は、清水専務理事他、PFAS 協議会メンバーへ相談する。

○環境放出、廃棄物などの国内規制への準備について

- ・今後、環境委員会の要請、国内法案化への具体的な動き、などのトリガーがあり次第、テーマとして取り組む。現在ではまだ具体性がないため、しばらくは話題程度に留めることで一致した。
- ・今後は、各社対応状況や米国の環境規制の情報を共有していく。

(2) 2023 年度活動内容について

- ・当面は PFAS 規制の情報共有および協議の場とする。
- ・各委員会の活動、および要請事項に合わせて都度対応する。

(第2回) 令和5年6月9日

議事

PFAS 規制関連について

○情報共有

- ・2023/4/14～6/8に行われた弗工会、PFAS 協議会、および環境委員会の会合、その他期間中に得られた PFAS 関連の情報や資料を共有した。
- ・今後ふえるであろう問い合わせ対応
予想される基本的な Q & A を TF で作成されている。弗工会 HP への掲載を予定。
HP の変更イメージとして PFAS-TF 資料 (HP の変更イメージ_20230601) を参照した。
会員各社でも回答の正確性を期すため、Q & A による一元化が望ましく、記載ない項目については TF へ預ける方法などが紹介された。

・FP の安全性

PTFE が人体へ無害であることの証左として、ゴア社公開資料 (Summary-of-CRL-and-ALS-Studies-on-PTFE ja) を共有した。

・ふっ素樹脂関係団体の見解

国内外のふっ素樹脂に関する団体の見解書が一通り出そろい、下記ファイルにて内容を共有した。

FPG… 21_March_FPG_Statement_on_the_PFAS_REACH_restriction_report

FCJ… FCJ Comment on PFAS

JFIA… ①欧州 PFAS 規制案へのパブコメの再度のお願い
②欧州 PFAS 規制案に対する見解書 (JFIA) 日本語版
③上記英文 ← 割愛
④パブコメ提出までの手順

経産省… 230530_PFAS 意見書仮訳

・TF による団体訪問

TF 作成資料「PFAS TF 活動議事録」にて共有した。

○環境放出、廃棄物などの国内規制への準備について

- ・委員会メンバーにおける環境放出への取り組みを話し合い、排ガス、排水、それぞれ、設備による対

応方法などを共有した。

(1) 環境委員会より作業環境注意喚起

制限提案書 1.1.4.9 人健康への影響(附属書Bハザード及びリスク情報_原文_B.5.4 および該当文献参照)の記述を受け、PTFE スプレー作業時の会員の実態確認依頼があった。

コーティング委員会メンバーでは、吸収缶フィルターマスク、送気マスクのいずれかの着用が徹底されていることが再確認された。

(第3回) 令和5年8月23日

(1) 議事 PFAS 規制関連について

・弗工会の活動状況

PFAS-TF では予定していた40数団体の内、7割前後の団体との接触を終えている状況を共有した。

また、7/21の軽金属製品協会/家庭日用品部会への同行について報告した。規制案で代替候補が多く挙げられているコンシューマー向け調理器具を扱う企業が多く所属しており、ふっ素樹脂コーティングの唯一性を支持する立場から、パブコメの提出を予定している。

・規制側の動向

UK-RMOAの食品接触に関する記述を確認し、FC向けコーティングが、経口摂取、飛散分散性、管理使用/管理製造的でないなど、FPでは規制対象の最前列にある傾向を共有した。

併せて、作業環境における労働衛生の徹底が不足している実態として、NHKで放送された塗装現場の様子を共有した。

・コーティング作業環境

環境委員会の確認要請を受け、次回に引き続き議題として取り上げた。

これまで、塗布工程の衛生については、塗料メーカー各社のSDSを参照したうえで、吸収缶(防ガス/防塵両用)付防毒マスク、送気式マスク、の着用を推奨し、口頭による実施確認を行ってきた。今回も出席7社全社で吸収缶(防ガス/防塵両用)付防毒マスクおよび送気式マスクの着用が確認できた。

工業会からの刊行物では取り扱いマニュアルがあり、「2. 二次加工上の注意」の項目で、「ライニング」、「機械加工」、「溶接作業」での、パウダー取扱、熱加工に伴い発生する、粉塵、ガス及びポリマーヒュームへの対策として保護具着用を促している。

一方、スプレー作業においては、作業時に着用すべき保護具について明言した記述はなく、会内でスプレー時の保護具に関して、明文化の検討を行った。

主に、排気設備と、着用保護具に関するものであり、この内、局所排気については、同資料の付属資料Bに記述がある。

保護具については、前述の通り明記がなく、現状が塗料メーカー各社のSDSを参照した衛生対策である点を鑑み、SDS同様の記述が提案された。

なかでも、送気式、吸収缶タイプの内、送気式がより望ましい点を強調する方が、業界の衛生環境をけん引する立場であれば望ましいのではとの意見もあった。

実態として、各社送気式の使用は、展開/定着しづらい認識が共有され、併記に留めるべきか、各方面に意見を求めることとした。

環境委員長に報告の上、次回会合で引き続き検討することとした。

- ・コーティング工場からの環境放出

昨今の PFAS 規制案動向を鑑み、管理使用、管理製造の観点から、コーティング工場で発生する PFAS の環境放出を検討した。それぞれ排出基準値は、以下の通り。

大気汚染防止法では、フッ素、フッ化水素、フッ化珪素がばい煙として指定されており、施設の種類により 1.0-20mg / m³ が設定されている。

水質汚濁防止法では、フッ素及びその化合物として指定されており、フッ素 8mg/L（海域に排出の場合 15mg/L）と設定されている。

会員企業の実態について、塗装ブースの排気、焼成ガスの排気、ともに上記基準は満たしているが、スクラバー等の追加の捕集装置を設備する会員企業は少ないなどの現状が共有された。

内 1 社では全排気を一手に集約してスクラバー処理しており、実際に PFAS 捕集にどの程度の効果があるのか委員会で把握するためとして、測定する案が出された。

一方、規制側からの基準変更の情報がない現状では、測定は時期尚早ではとの意見もあった。

スクラバーの処理能力次第でもあり、今後、設備会社への調査等も行いながら、慎重に検討を進めることとした。

（２）その他

- ・改正食衛法 コーティング業の受注形態問い合わせ

弗工会内での聞き取り調査を受け、会内で実態を確認した。

新規、修理、共に装置製造、器具製造、装置販売、食品製造、それぞれ 4 種の事業と直接取引があることについて異論はなかった。

- ・ハンドブック 技術委員会問い合わせ

技術委員会より、5.8.4.1 静電粉体塗装法および 5.8.4.2 流動浸漬塗装法に約 2000 μm の数値が記載されているが、コーティングで施工が出来るのかとの聞き取りがあり、会内で確認した。

静電粉体塗装についてはその通りであり、2000 μm の表記はあっても良いのではとの意見でまとまった。

流動浸漬については、会員企業に現状加工の実態はなく、2000 μm 加工有無の判断はできなかった。

一方で、可否という点では可であろうとの意見が大半を占めた。

（第 4 回）令和 5 年 10 月 26 日

（１）議事スプレー作業時の衛生状況について

環境委員会よりふっ素樹脂取り扱いマニュアル上への成文化の要請が有り、前回に引き続き議題として取り上げた。

工程に応じたマスクの使い分けなど協議結果など盛り込んだ案文を作成した。

後日環境委員会へ提出する。

（２）PFAS 規制関連について

- ・弗工会の活動状況

弗工会フォルダにある議事録を参照し、TF の活動状況を共有した。

- ・規制側の動向

米国 PFAS データ報告規則に関する最終規則 88 FR 70516 について、内容を確認した。

(3) コーティング工場からの環境放出

各社の実態、測定への取り組み、対策への見通しなどについて共有し、委員会で実施しうる取り組みについて協議した。

次回以降も設備会社への調査等行いながら、引き続き、慎重に検討を進めることとした。

(第 5 回) 令和 6 年 2 月 7 日

(1) 議事 PFAS 規制関連について

- ・経産省依頼聞き取り調査「フッ素規制による JIS 規格への影響に関する調査」

調査委託会社オウルコンサルティング社より予め提示されたヒアリング項目について会内で共有するとともに、回答案について協議した。

規制改革要望の位置づけでは、依然として当会で取り組み案のある環境放出への関心が高くある。

取り組みの先行を進めるべく、具体要素を引き出すことに期待する声もあった。

- ・弗工会周辺の活動および情報

11/28 ～ FCJ 第 4 回ウェビナー 「PFAS の最新規制動向について」

12/1 ～ JFIA 第 91 回フッ素樹脂講習会 「PFAS 規制の背景にある欧米の環境政策の動向」

上記 2 講習については、各社で受講なされており、ここでは概要についてレビューした。

上記以外の PFAS 規制に関する ECHA からの新たな情報はなく、EPA については前回共有した報告義務について引き続き情報共有を行った。

(2) その他

- ・今後の取り組み案について・・・コーティング製品の評判低下を懸念する声は以前からあるが、業界のイメージアップに対する取り組みは必要か意見を募った。結果、必要性については各社で意見が異なるため保留とした。また、本件のようにコーティング委員会で取り組みを希望する内容について各社から案を募ることとし、次回以降の会合にて検討することとした。

- ・LCA・・・環境委員会で報告のあった「PTFE 成形に関する LCA 報告」について共有した。

コーティング委員会員の LCA への取り組みについては、まだ具体的なものではない状況であったが、今後注視する動向として認識を共有した。

令和５年度 主要会議等スケジュール（実績）

会 議 等 名	日 時		会 場	摘 要
財務委員会	令和５年５月８日（月）	11:00～12:00	工業会・会議室	
会計監査	令和５年５月８日（月）	13:00～14:00	同上	
政策委員会	令和５年５月16日（火）	13:00～14:30	如水会館	
理事会	令和５年５月16日（火）	13:00～14:30	同上	
定時社員総会	令和５年６月７日（水）	11:00～12:00	同上	
定時社員総会後の懇親会	令和５年６月７日（水）	12:00～13:00	同上	
JFIA 親睦ゴルフ会	令和５年６月８日（木）		多摩 CC	
第 90 回ふっ素樹脂講習会	令和５年７月３日 ～ ７月 28 日		WEB 動画配信	WEB 動画配信により 実施 132 名参加
財務委員会	令和５年10月23日（月）	14:00～15:00	工業会・会議室	
政策委員会	令和５年11月７日（火）	16:00～17:30	琵琶湖畔	
理事会	令和５年11月７日（火）	16:00～17:30	同上	
JFIA 親睦ゴルフ会	令和５年11月８日（水）		ジャパンエース GC	
第 91 回ふっ素樹脂講習会	令和５年12月１日 ～ 12 月 25 日		WEB 動画配信	WEB 動画配信により 実施 153 名参加
賀詞交歓会	令和６年１月11日（木）	11:00～12:15	如水会館	

6 . ふ っ 素 樹 脂 統 計

ふっ素樹脂生産、出荷、在庫統計

項目 年月	生 産		出 荷			在 庫	
	数量 (トン)	対前年 (同月)比 (%)	数量 (トン)	対前年 (同月)比 (%)	金額 (100 万円)	数量 (トン)	対前年 (同月)比 (%)
平成 18 年	27,779	107.8	27,389	111.9	69,172	5,148	103.9
平成 19 年	28,498	102.6	27,146	99.1	68,230	6,478	125.8
平成 20 年	29,276	102.7	28,267	104.1	68,127	7,173	110.7
平成 21 年	14,687	50.2	16,817	59.5	37,217	4,244	59.2
平成 22 年	28,173	191.8	27,430	163.1	63,762	4,255	100.3
平成 23 年	29,046	103.1	27,856	101.6	68,872	5,542	130.2
平成 24 年	27,233	93.8	25,463	91.4	61,690	6,417	115.8
平成 25 年	25,234	92.7	26,240	103.1	66,597	5,233	81.5
平成 26 年	29,201	115.7	28,102	107.1	73,060	5,047	96.4
平成 27 年	27,610	94.6	26,552	94.5	72,704	4,934	97.8
平成 28 年	28,374	102.8	27,648	104.1	73,708	4,653	94.3
平成 29 年	30,151	106.3	29,363	106.2	81,508	5,300	113.9
平成 30 年	30,886	102.4	32,082	109.3	93,781	4,817	90.9
令和元年	31,882	103.3	29,702	92.6	86,979	5,889	121.9
令和 2 年	25,066	78.5	24,696	83.1	73,770	5,159	87.9
令和 3 年	33,032	131.8	30,714	124.4	96,413	4,492	87.1
令和 4 年 1 月	3,370	126.5	2,608	115.2	9,192	5,034	91.6
2 月	3,124	132.4	2,718	116.2	10,027	4,949	92.3
3 月	3,485	140.9	2,774	109.5	10,284	5,153	99.7
4 月	2,823	128.2	2,386	99.7	9,852	5,159	113.7
5 月	3,125	104.9	2,683	99.1	10,426	5,484	116.4
6 月	2,034	70.6	2,755	93.3	10,403	5,031	115.3
7 月	3,102	101.6	2,529	88.5	9,552	5,429	125.7
8 月	3,880	114.3	2,718	107.7	11,155	5,964	122.1
9 月	3,622	116.8	2,761	103.6	11,123	6,466	129.1
10 月	2,896	137.4	3,190	112.6	12,682	5,817	142.8
11 月	3,018	109.3	2,767	124.9	11,646	5,570	127.5
12 月	3,373	110.4	2,873	118.6	10,769	6,425	143.0
令和 4 年 計	37,852	114.6	32,762	106.7	127,111	6,425	143.0
令和 5 年 1 月	3,531	104.8	2,668	102.3	10,927	7,638	151.7
2 月	2,874	92.0	2,920	107.4	10,964	7,537	152.3
3 月	3,385	97.1	2,945	106.2	11,475	7,848	152.3
4 月	2,786	98.7	2,322	97.3	9,235	8,031	155.7
5 月	3,381	108.2	2,396	89.3	9,953	9,013	164.4
6 月	3,015	148.2	2,870	104.2	11,382	9,382	186.5
7 月	3,286	105.9	2,740	108.3	11,293	9,601	176.8
8 月	3,885	100.1	2,650	97.5	11,213	10,507	176.2
9 月	3,346	92.4	2,647	95.9	10,794	10,809	167.2
10 月	2,880	99.4	2,590	81.2	10,568	10,698	183.9
11 月	2,299	76.2	2,385	86.2	9,487	10,573	189.8
12 月	2,606	77.3	2,490	86.7	10,931	10,792	168.0
令和 5 年 計	37,274	98.5	31,623	96.5	128,222	10,792	168.0
令和 6 年 1 月	2,594	73.5	2,195	82.3	8,762	10,993	143.9
2 月	2,541	88.4	2,551	87.4	10,682	11,112	147.4

出典：経済産業省・生産動態統計

ふっ素樹脂製品出荷額統計

令和 5 年度 (令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月)

(報告社数：22社、単位：千円)

需要部門 品目	各種機械製造業					化学、金属 製品製造業	その他 製造業	電気、ガス 水道業	輸 出	その他の 業種・不詳	合 計	構成比 (%)	前期比 (%)
	電気機械器具		輸 送 機械器具	精 密 機械器具	一 般 機械器具								
	(内、半導体関連)												
板	2,414,571	(2,111,584)	15,331	23,889	431,687	128,524	1,498,824	127	55,755	1,830,454	6,399,162	3.6%	115.7%
パイプ・チューブ	12,058,036	(11,502,518)	2,031,829	8,642,785	2,314,804	556,639	182,582	25,618	4,136,459	2,371,933	32,320,685	18.3%	124.0%
棒	1,664,696	(1,325,722)	2,494	18,722	407,196	63,600	858,406	138	86,825	1,339,118	4,441,195	2.5%	104.8%
その他素材	1,575,902	(1,488,924)	199,274	133,135	493,250	191,710	594,184	1,288	37,900	1,579,519	4,806,162	2.7%	128.3%
テープ	353,451	(171,008)	263,259	88,932	175,670	302,710	339,186	17,329	669,045	996,486	3,206,068	1.8%	110.6%
生テープ	50,945	(209)	406	3	2,412	9,685	143	286,270	2,290	79,958	432,112	0.2%	95.2%
樹脂含浸製品	63,489	(0)	83,893	91,012	603,093	64,812	328,752	0	109,700	311,328	1,656,079	0.9%	49.1%
コーティング	4,253,888	(3,549,836)	452,089	267,743	1,602,504	2,880,901	1,665,208	0	175,735	589,854	11,887,922	6.7%	105.1%
ライニング	2,775,048	(2,255,861)	267,840	34,402	1,002,629	5,612,401	117,029	17,353	98,444	1,384,203	11,309,349	6.4%	144.2%
加工品 A	27,518,359	(24,787,839)	2,915,456	1,352,325	4,183,995	1,632,237	999,714	14,550	5,557,958	1,642,928	45,817,522	25.9%	104.2%
加工品 B	8,192,775	(7,718,432)	8,509,540	2,446,804	1,780,009	252,115	42,465	317,774	1,261,506	1,137,165	23,940,153	13.5%	108.2%
加工品 C	17,027,622	(16,711,329)	2,325,116	1,113,919	810,036	2,262,598	467,764	393,932	272,796	5,797,758	30,471,541	17.2%	105.1%
合 計	77,948,848	(71,623,262)	17,066,527	14,225,318	13,808,755	13,958,042	7,094,257	1,074,379	12,464,413	19,067,546	176,708,085	100.0%	110.0%
構成比 (%)	44.1%	(40.5%)	9.7%	8.1%	7.8%	7.9%	4.0%	0.6%	7.1%	10.8%	100.0%		
前期比 (%)	103.6%	(107.2%)	112.7%	114.9%	112.2%	140.5%	107.7%	133.3%	105.7%	116.4%	110.0%		

- (注) 1. 上記の出荷額は、現正会員 22 社分の合計額である。
2. 需要部門の (半導体関連) は、電気機械器具の内数となっている。
3. 構成比の単位未満は、四捨五入しているの計と内訳が一致しない場合がある。
4. 加工品 A：加工品であって、ふっ素樹脂 100% のものをいう。
加工品 B：加工品であって、ふっ素樹脂の金額が 50% 以上を占めると思われるものをいう。
加工品 C：加工品であって、ふっ素樹脂の金額が 50% 未満の複合品をいう。

7. 令和6年度事業計画

本工業会は、ふっ素樹脂業界の共通問題の討議及び政府のその他の機関との折衝と、ふっ素樹脂製品の生産向上及び諸産業への応用の推進、利用の促進を図ることにより、ふっ素樹脂産業の総合的な進展と国民経済の繁栄に寄与するとともに、会員の発展、繁栄と会員相互の協調、親睦を図ることを目的として工業会の活動を行う。

〔委員会施策の推進〕

1. 関係官庁とのコミュニケーションの強化
2. 会員の増強
3. 情報収集の強化及び提供
4. 調査統計資料の整備、充実
5. ホームページ、パンフレットによる各種情報提供の充実
6. ふっ素樹脂講習会の充実
7. 標準化の推進 (ISO,JIS)
8. 環境及び産業衛生対策の推進
9. その他の事業

〔業務委員会の活動計画〕

1. 技術委員会

- (1) 日本プラスチック工業連盟 (TC61/SC9) と ISO 規格の審議
 - ・都度審議
- (2) JIS 規格の改定審議
 - ・2024 年度改定時期にあたる対象 JIS 規格は 4 規格有り、必要に応じて改定する
- (3) ハンドブックの改定
 - ・ハンドブック全編にわたっての改定作業は概ね完了。今年度に第 15 版を発行予定。
- (4) Q & A の対応 (外部からの質疑)
 - ・技術課題をその都度対応する。
- (5) 日本弗素樹脂工業会の懸案事項対応 (工業会として)
 - ・他の委員会とも協力して都度対応

2. 環境委員会

- (1) ふっ素樹脂広報活動

令和5年度には、特定 PFAS 類とふっ素樹脂の違いを確認する PFAS イメージを作成した。当該資料に添付する形で、ふっ素樹脂の健全性・有用性をアピールする資料を作成し、HP 上で公開する。
- (2) ふっ素樹脂成形品製造時の LCCO2 算出結果の公開

令和5年度に算定した P T F E シートの LCCO2 の算出結果は、PTFE シート 1 Kg あたり 9.2kg-CO2eq と他のプラスチックに比べて、2 倍以上高い値であることを確認した。そのため、公開にするにあたり、ふっ素樹脂の耐久性を加味し、トータルでの CO2 削減を訴求できるような形を検討し、HP 上で公開する。
- (3) ふっ素樹脂製品リサイクルにむけた基礎的情報の収集
 - ・環境省にヒアリングを行い、プラスチック廃棄物の収集・再生を行う上での法的要求事項を理解する

- ・関連業界（一般社団法人プラスチック循環利用協会、プラスチック工業連盟等）へのヒアリングを行い、産業用プラスチック製品のリサイクル状況・方策を把握する。
- ・ふっ素樹脂のリサイクルや廃棄物処理、その環境影響に関して、文献調査を実施する

（４）ふっ素樹脂製品中特定 PFAS 等測定方法の標準化

欧州 POPs 規則等で、製品中の特定 PFAS 等の含有率の閾値が定められたことにより、顧客からふっ素樹脂中の特定 PFAS 等含有率測定結果の要求が高まりつつあるが、製品中の特定 PFAS 等測定に関する公定法はまだ設定されていない。多くの分析機関が「CEN/TS 15926:2010」を参考に独自の手法で測定を実施しているのが現状である。そのため、①ふっ素樹脂パウダーの特定 PFAS 等測定結果が、分析機関によって大きく異なる。②特定 PFAS 等を使用していないふっ素樹脂製品の測定で、特定 PFAS 等が検出されたことがある。などの不都合が生じている。

これら測定結果の違いは、特定 PFAS 等の測定そのものではなく、前処理方法（サンプル粉碎・抽出等）に大きく依存していると推察される。測定結果に差がでることもさることながら、特定 PFAS 等不含有のふっ素樹脂製品にもかかわらず過粉碎の影響で特定 PFAS 等類が検出した場合には、ふっ素樹脂製品取扱いに多大なる懸念を与えることになりかねない。そこで、本件について、日本フルオロケミカル協議会と連携して、製品中特定 P F A S 等の測定方法の標準化を検討していく。

（５）各国 PFAS 規制動向調査

各国情報を集約し、定期的に会員に配信する

（６）食品衛生法改正関連のふっ素樹脂取扱いマニュアル等の変更

食品衛生法の改正ポジティブリストが本年 6 月に施行されるため、ふっ素樹脂取扱いマニュアルの記載内容を一部改訂する。

3. 広報委員会

（１）ふっ素樹脂講習会開催に向けての活動

5 月 1 6 日	第 9 2 回講習会内容検討
6 月 2 1 日	ダイキン工業(株)において第 9 2 回講習会を開催（リアル開催）
8 月～	1 2 月に開催の第 9 3 回ふっ素樹脂講習会の内容検討

（２）ふっ素樹脂 NEWS の発行

（３）工業会ホームページの内容更新

4. コーティング委員会

（１）PFAS 規制化動向の共有と対応

（２）環境放出、廃棄に関する情報共有と対応

（３）ふっ素樹脂コーティングに関する問合せ対応

（４）その他

- ・コーティング加工の LCA 情報共有 / 展開対応。国内規制の情報共有。など

8. 令和7年度（4～6月）暫定事業計画

1. 定時社員総会の開催（令和7年6月10日）
2. 理事会・政策委員会の開催（令和7年5月13日）
3. 「ふっ素樹脂 NEWS」の編集・発行
4. 会務・業務委員会の開催
5. その他の事業

令和6年度 主要会議等スケジュール（予定）

会 議 等 名	日 時	会 場
財務委員会	令和7年5月7日(水)	11:00～12:00 工業会・会議室
会計監査	令和7年5月7日(水)	13:00～14:00 工業会・会議室
政策委員会	令和7年5月13日(火)	13:00～14:30 如水会館
理事会	令和7年5月13日(火)	13:00～14:30 如水会館
定時社員総会	令和7年6月10日(火)	11:00～12:00 如水会館
総会後の懇親会	令和7年6月10日(火)	12:00～13:00 如水会館
JFIA 親睦ゴルフ会	令和7年6月11日(水)	未定

会 議 等 名	日 時	会 場
財務委員会	令和6年5月8日(水)	11:00～12:00 工業会・会議室
会計監査	令和6年5月8日(水)	13:00～14:00 工業会・会議室
政策委員会	令和6年5月14日(火)	13:00～14:30 如水会館
理事会	令和6年5月14日(火)	13:00～14:30 如水会館
定時社員総会	令和6年6月11日(火)	11:00～12:00 如水会館
定時社員総会後懇親会	令和6年6月11日(火)	12:00～13:00 如水会館
JFIA 親睦ゴルフ会	令和6年6月12日(水)	東京よみうり CC

第94回ふっ素樹脂講習会	令和7年6月	未定
財務委員会	令和7年10月	未定 工業会・会議室
政策委員会	令和7年11月	未定 未定(地方会場)
理事会	令和7年11月	未定
理事会後の懇親会	令和7年11月	未定
JFIA 親睦ゴルフ会	令和7年11月	未定
第95回ふっ素樹脂講習会	令和7年12月	動画配信
賀詞交歓会	令和8年1月	11:00～12:15 如水会館

第92回ふっ素樹脂講習会	令和6年6月21日(金)	13:00～	ダイキン工業会議室
財務委員会	令和6年11月11日(月)	未定	工業会・会議室
政策委員会	令和6年11月19日(火)	未定	未定(地方会場)
理事会	令和6年11月19日(火)	未定	
理事会後の懇親会	令和6年11月19日(火)	未定	
JFIA 親睦ゴルフ会	令和6年11月20日(水)	未定	
第93回ふっ素樹脂講習会	令和6年12月		動画配信
賀詞交歓会	令和7年1月16日(木)	11:00～12:15	如水会館